

富士川中流域アユを育む・清流プロジェクト 第7回 WG 会議・現地調査

日程 : 令和6年7月29日(月) 13:00～

場所 : 南部町農村環境改善センター 2階会議室

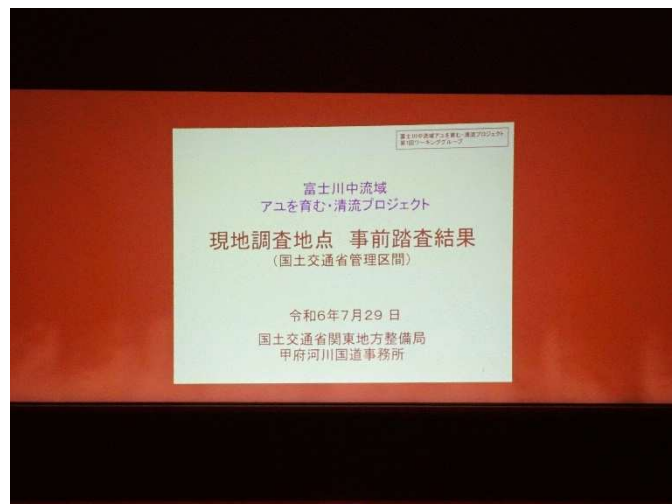
会議

- (1) 令和6年アユ関係調査計画と経過報告

現地調査

- (2) 富士川(富士川合流点)
- (3) 富士川(上富士川橋下流)
- (4) 佐野川(十島枯下橋付近)
- (5) 十島堰堤

【会議】



- (1) 経過報告と今後の予定について

- 1) 国土交通省

- ・R6年度新たに、掃流砂調査・巨礫露出高調査を実施予定。
- ・富士川の目視調査において、多くのアユの群れを確認した。

- 2) 山梨県

- ・国土交通省と同様に掃流砂調査・巨礫露出高調査を実施予定。
- ・早川の魚類調査により、アユを23個体確認。やや痩せていた。

- 3) 早川町

- ・4月下旬及び7月上旬、環境美化活動を実施。
- ・10月上旬、環境美化活動を実施予定。
- ・山菜祭り会場において、PRチラシを配布。

- 4) 身延町

- ・6月、美化活動を実施。
- ・11月、富士川クリーン活動を実施予定。
- ・公共施設や観光施設において、PRチラシを配布。
- ・町内の支川41箇所での水質調査を実施。

5) 南部町

- 5月、釣り大会を実施。
- 7月、美化活動を実施。
- 8月、11月、清掃活動を実施予定。
- 町内の支川20箇所での水質調査を実施。

6) 日本軽金属

- 塩之沢魚道において魚種調査を実施。
- 塩之沢魚道の遡上・降下状況を把握。
春期の3ヶ月で、5800匹の魚の遡上を確認した。
- 魚道の維持管理を実施（十島魚道下流河道整備を新規実施）。
- 早川町、身延町、南部町での美化活動を実施

【質疑】

Q：日本軽金属（株）が実施している「ビデオ撮影による塩之沢魚道の遡上・降下状況把握」について、遡上数のカウントはどのように行っているのか。また、撮影期間はどのくらいなのか。

A：撮影された魚影を対象として、画像解析による自動カウントを行っている。現時点では、令和6年3月末～6月末にかけての結果を整理しているため、約3ヶ月間の撮影期間の結果となる。

【現地調査】

(2) 富士川（富士川合流点）

富士川と福士川の合流点。アユの生息に適した環境となっており、国土交通省の調査地点（St.1）である。



(3) 富士川（上富士川橋下流）

アユの生息に適した環境であり、多くの釣り人で賑わう場所となっている。



(4) 佐野川（十島枯下橋付近）

アユの天然遡上が確認されている河川。



(5) 十島堰堤

富士川中流に位置する堰であり、魚道が機能している。



【山梨県水産技術センターからの助言】

・アユの生息適地条件としては、濁りが生じにくいこと、瀬淵構造が形成されていること、浮石や直径 25cm 以上の巨石が存在することが挙げられる。富士川はこれらの条件を概ね満たしており、アユに対して良好な河川環境と言える。

・佐野川は、天然遡上のアユが生息しているが、堰堤の存在、河床の平坦化、水量の不足等の懸念点が見受けられる。